

20231225 田中事務局居座り（抜粋）

田中議員

二見さん、これあんたが申出書のリーダー、代表者なん。

二見議員

うん、僕が代表です。

田中議員

これメモの中には、あんたがおらんかった時の話もいっぱいのおつとる。
事務局長に作らせたということ。

二見議員

別に誰が作ったとか、うちらがでも出したんよ。それは、まあね、みんなで書いたわけじゃないよ。

田中議員

事務局長に作らしたんでしょ。

二見議員

作らせたって言うんじゃないね。作らせたね。

田中議員

なんで、そんなふにやらふにやらいうんね。

二見議員

ふにやらふにやらじゃない。

だってうちらが作ったやつ、うちの出した資料なんだから、誰が作ったは関係ない。

田中議員

いや、作ったのはわかってるから。

二見議員

いや、じゃあいいじゃないですか。

わかってんだから。

田中議員

だからこれは事務局長が作ったんでしょって。

二見議員

事務局長、事務局長かどうかは知らない。

田中議員

そうやってとぼけるんよね。

あんたも意地が悪いの。いつからそんなに意地が悪るうなったん。

ちゃんと真実を言いなさいよ。

事務局長と言え。

二見議員

いや、だからあのね。

それで、審査会が始まるわけだから言いたいことは審査会で言っちゃったらええやん。

田中議員

あたりまえじゃないか。

僕が言うのは審査会で言うとか言わんとかいう問題ではなくて、この資料は事務局長がつくったんじゃないかって言いよるん。

二見議員

別にそれに何で答えないといけないの。

別にそれは、そこに書いてあることが事実かどうかでしょ、問題なのは。

田中議員

わかった。

二見議員

うん。

田中議員

そりゃあ一方的な見方よね。

殴って殴り返されとってよね。

殴り返した方だけ殴った、殴った言われよったら、それこそあんたイスラエルじゃん。

ネタニアフと一緒にだよ。

二見議員

今、自分がプーチンじゃ、言いよったじゃない、自分で。

田中議員

いや、逆じゃ言いよったんよ。僕はプーチンじゃないよって。

一方的にいきなり殴ったプーチンじゃない。いやそりゃプーチンだって、それはあれなんかいいね、ミンスク合意破られたけん殴ったっていう理屈があるんだけども、今回の戦争で言えば、ロシアの方へいきなり攻めってった。

二見議員

だから、田中さんはね、何か理由があれば、パワハラしてもいいっていう、そういうことですかね。

田中議員

いやそんなこと誰がいいよるんね。

二見議員

いやいや、そうですかねって聞いたんですよ。

田中議員

そうじゃないですよ。

二見議員

そうじゃないんですね。じゃあ何でするんですか。

田中議員

何。

二見議員

何でするんですか。

田中議員

何を言いよるんだよ。

二見議員

何を言いよるんねって、そこに書いてあることはどう見ても、パワハラじゃない。

田中議員

だから、あなた言うように、殴って殴られた場合、殴り返した場合、殴り返した方だけを言うんですかっていう。

二見議員

だから、僕はそういうふうにしてね、事務局が田中さんにパワハラしてないっていう、したというふうには思っていないけども、田中さんは、仮にそういうふうなパワハラがあったというふうにするんだったら、やり返してもいい、っていうそういうふうを考えられてるんですか。

田中議員

いや、そういうことをいいよるんじゃないですよ。

二見議員

いやいや、そういうこと言いよるじゃないですか。

自分はやられたね、やったにはそれだけの理由があると。

うん、だからやられたら、やり返してもいいというふう聞こえますけどね。

田中議員

僕が言ったあなたが、パワハラだ、事実だっていうのはどういうものですか。

二見議員

例えばね、今、午後5時半過ぎてんですよ。

職員の勤務時間は、5時15分。

田中議員

そうよ、帰ろうよ。

二見議員

帰ってください。

田中議員

あんたも一緒に帰ろうや。

二見議員

いやいやいや、なんで、またそれも。

田中議員

ほいじゃあ、かえろうや。

二見議員

はい。さようなら。

田中議員

あんたも一緒に帰ろうや。事務局員残らず気か。パワハラするんか。

二見議員

いやいやいや、帰らせないのはあなたでしょ。

田中議員

いやいやいや。

二見議員

いやだから帰りなさいよ。

田中議員
じゃけ帰ろうや。

二見議員
いえ、いいんです。
私は、私の判断で帰ります。

田中議員
僕も僕も判断で帰ります。

二見議員
あー。そうやって今僕の隣に座って、ここに居座りつもりなんですかね。
もう5時35分になるんですけども。

田中議員
いやだから帰りましょう。

二見議員
帰ってくださいよ。

田中議員
いやだから帰りましょうって言いよるんよ。

二見議員
いやだから、なんで僕と一緒にないと帰れないの。
小学生じゃないんだから。自分で帰ったらいいじゃないですか。

田中議員
僕は小学生でも中学生でもないのに、なにいいよるん。

二見議員
だから帰ったらいいじゃないですか。

田中議員
だからね、あの、事務局員をここに居残りさせるような行為を二見議員はさせるのはパワハラになりますよ。

二見議員
いやいやいや。

田中議員
あなたがそこへ居座って、大きな体で。

二見議員
だから、どうして僕と一緒に帰らないと、どうして田中さんは帰れないんですか。

田中議員
一緒にじゃなくてもいいよ。

二見議員
いや、だから帰ってください。さっき職員に言われたでしょ。事務局長から。

田中議員
僕は帰るから。

二見議員
帰ってください。

田中議員
僕が帰るから、二見さんも帰りましょう。

二見議員
いやいや、私も帰りますよ。私は私の判断で帰りますから、私がこうやって、不毛なやりとりをして、私をね、帰らせないっていうのはね、するのは、これ自体はもう、パワハラですよ。

田中議員
帰らせないことないじゃない。

二見議員
いやいやだからお帰りください。

田中議員
いや、今どうやって、帰らせない行為とは何なん。

二見議員
いやいや、だから帰ってください。

田中議員
帰りましょうよ。

二見議員
いや、なんで僕は一緒じゃないといけないんですかって。

田中議員
だから一緒とは言っていないじゃない。

二見議員
いやいや、だから帰ってください。

田中議員
だから帰りましょうよ。

二見議員
いやいや、だから帰りなさいよ。

田中議員
ここへ。二見議員。
あなたはここへ大きな体を窓際のいすに座って、座り込んで事務局員を帰らさない状態を今してる。僕はもうドアから出ようとしてる。

二見議員
いや、だから、かえってください。誰もお引止めしませんので、お帰りください。

田中議員
いや、止める止めんじゃなく、二見議員は、事務局員を居残りさせてるじゃないですか。

二見議員

いや、私じゃないです。

あなたが帰らない、マスコミの電話するのにね、何で事務局の中で電話せんといかんのですか。自分の自宅でね、あるいは事務所でされたらいいじゃないですか。

田中議員

あなたは何でそんなところに座り込んで、こんなことを言うんですか。

自宅でされればいいじゃないですか。

帰ればいいじゃないですか。

二見議員

いやいや、だから帰りますよ。

田中議員

帰りますよ。

二見議員

だから田中さん、帰ってください。

田中議員

いやちょっと、二見さん、何でそんないじわるばかり言うん。

二見議員

いやいやいや、だからあなたが居座るから、私はこうね、心配でおるんですよ。

田中議員

居座ってないじゃない。

二見議員

居座ってるじゃないですか。

田中議員

みんな困ってるじゃない。

二見議員

これ以上続けますか。

田中議員

何。

二見議員

これ以上続けますか。

田中議員

何。

二見議員

これ以上続けますか。

田中議員

何を続ける。

二見議員

こういう帰る、帰らんです。

田中議員
いや、続けてないよ。

二見議員
じゃあお帰りください。

田中議員
お帰りください。

二見議員
いえいえいえ。お先にお帰りください。
私は心配でこんなんでは帰れません。

田中議員
いや僕が心配なんです。

二見議員
うん。

田中議員
二見さん、大きな体で、窓際でドシツとなってね、威圧的に2人ににらみを利かして。

二見議員
田中さん、自分の出された文書のことを考えてくださいよ。

田中議員
そういうふうに、、、。

二見議員
僕、僕とね、田中さんがやってることを、あたかも僕がやってるようなふうに言わないで欲しいな。

田中議員
いやそんなこと言ってないじゃない。
何を。

二見議員
いや言ってるじゃないですか。

田中議員
何を言ってるん。二見さんが、、もう写真撮るよ、

二見議員
どうぞ。いいですよ。
ここで幾らでもとってください。

田中議員
いや、二見さんが、窓際に座ってのっしと座って、大きな体で居座ってるから事務局員帰れないじゃないですか。

二見議員
いや、そんなことないですよ。

田中議員
私は帰ろうとしてるんだから。

二見議員
帰ってください。

田中議員
帰ろうとしてるに、あなたがそこに。

二見議員
はい。どうぞ、お帰りください。

田中議員
一緒に帰ろうや。

二見議員
いやいや、別に一緒に帰らないですよ。

田中議員
さっき、帰りんさいって。

二見議員
いやいや、先に帰るのは田中さんですよ。

田中議員
心配じゃない、あなたがそこに居座って。

二見議員
いやいや、私は、別にね、事務局に何にも威圧的な行動をとってない、あ、また残るんですか、居残りするんですか。椅子にカバンを置いて。

田中議員
何を。

二見議員
じゃあ、お帰りください。

田中議員
何いいよるん。

二見議員
おいたじゃないですか。
帰らないんですか。

田中議員
何いいよるん。
えらい意地がわりいね、あんたも。
もう 1 回言うけどやね、窓際のいすに、何これ、そんきよまがいの、両足踏ん張って居座って、田中さん、はよ帰れ、はよ帰れって言って、自分は居座って事務局員の居残りさせとるじゃないね。二見さん。

二見議員
はい、さようなら。

田中議員

さようならば、あなたでしょ。

二見議員

どうしてなんですか。

田中議員

いやじゃあどうしてなんですか。

二見議員

いやあなたがね、今までも。

田中議員

ちょっと待って。

二見議員

いやいやちょっと待ってじゃないですよ。

事務局長をはじめね、事務局員に威圧的な態度をとってきた、ね、そういうことがあるから、僕は心配で、この前に座ってるんであって、今のやりとりね、あるようにね、延々と同じことを繰り返して帰ろうとしない。これはいやがらせ、ね、ですよ。

田中議員

帰さそうとしないのはあなたですよ。

二見議員

いやいや、そんなことないです。

だから、お帰りください。

田中議員

いやお帰りくださいって。

もう帰ろうぜ。

二見議員

うん、だから帰ってくださいよ。

何で僕がここにいたらあれなんですか。

田中議員

心配なんよ。あなたの大きな体で、威圧的に、声も大きいのが威圧的にやね。

二見議員

いや僕は威圧的に事務局に対応したことないですよ。

事務局員

ないですよ。

二見議員

ないですよ。はいはい。

どうぞ。

田中議員

大きな体で、座っとるわけだけどね。

二見議員

うん。座ってるのは事実。

田中議員

帰ろうとしない。居座っとるわけじゃけんね。

二見議員

いや、それは田中さん、田中さんが帰ったら帰りますよ。

そう、だから帰ってください。帰ってくださいよ。

田中議員

帰れ帰れ言うて、出てけ出てけ言うんと一緒やないですか。

二見議員

そうですよ。一緒です。

そういうことです。

田中議員

この人はね。

二見議員

さようなら。

田中議員

この人は議員を追い出す権限を持ってるそうやけんね。

二見議員

さらに5分経ちました。

田中議員

帰ろうで。ほんなら。

二見議員

帰ってくださいよ。

田中議員

帰ろうで。帰ろうや。

二見議員

さようなら。

田中議員

さようなら。

なんでそんなに意地悪なん。

二見議員

いいですか。どんどん長くなりますよ。

田中議員

だから、いや帰ろうよ。

二見議員

どうぞ、どうぞ。

田中議員

何を居座っとるんね。(退出)